

2021年7月14日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
三菱UFJニコス株式会社
アコム株式会社

大阪府初、水素を燃料として走行する燃料電池バス導入促進事業への支援について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）は、今般、大阪において初となる水素を燃料として走行する燃料電池バス^[1]の導入を支援すべく、大阪府に対して、グループ5社^[2]より総額5,325万円を寄付いたしました。

2050年カーボンニュートラルの達成に向け、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが加速するなか、次世代エネルギーとしての水素への注目が高まっています。大阪府は2025年に予定する大阪・関西万博の開催に向けて活用が期待される燃料電池バスについて、大阪で初となる導入を実現すべく、府内事業者に対する補助事業^[3]を新たに創設しました。

MUFGでは、「MUFGカーボンニュートラル宣言」を発表し、自社としての脱炭素に向けた取り組みを加速させるとともに、自社のパーパス（存在意義）を「世界が進むチカラになる。」と定め、全てのステークホルダーが次へ、前へと進むチカラになること、そのために全力を尽くすことを企業活動の指針としています。また、サステナビリティ経営の高度化を図るうえで優先的に取り組む10課題を特定しており、「水素・次世代エネルギー」は、気候変動対応・環境保全分野における重点領域に位置づけています。

MUFGは大阪府が行う補助事業に対する寄付を通じて、大阪初となる燃料電池バス2台分の導入を支援するとともに、本件を皮切りに、水素サプライチェーンの構築、ならびにその先にある持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

^[1] 水素と空気中の酸素の化学反応によって発生する電気によってモーターを駆動させ走行するバス。走行時にCO₂や環境負荷物質を排出しない。

^[2] 株式会社三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ証券ホールディングス株式会社、三菱UFJニコス株式会社、アコム株式会社

^[3] 燃料電池バスの導入を行う事業者に対して、1台あたり2,662.5万円を補助（最大2台）。

以上